

1. 日 時 平成25年10月〇日
2. 学年・組 第2学年〇組
3. 場 所 第2美術室
4. 題 材 名 「気持ちのパッケージをデザインしよう」
【A表現（2）（3）】

5. 題材設定の理由

○題材観

日本には、風呂敷や包装紙などさまざまな包む文化がある。季節の行事や誕生日のお祝い、相手への感謝の気持ちを贈り物で表すことも多い。こうした文化を感じながら、使う目的や包む中身に合った作品を表現する力をつけることを本題材ではねらいたいと考える。

商品化された多くのパッケージは、一枚の紙からつくられている。環境への配慮についても考えさせるとともに、必要な形をできるだけ簡略化してつくられていることにも気付かせたい。そのため、本題材でも、一枚のカラーケント紙を用いて包む形をつくる。カラーケント紙は、身近な素材であるが、切る、貼る、折る、たたむ、引っ張る、裂くなど表現方法が多様であり、素材の特性を生かして自分の表現意図に合う表現方法を考えさせるのにも適した素材である。箱の基本の形から、装飾や形の変化を工夫し、見た目の楽しさ、美しさを考えてつくるようにさせる。

○生徒観

これまで、生徒は、気持ちを伝えるメッセージカードづくりを経験している。紙を切り抜いたり、切り込みを入れたりして、飛び出す形として立体にする学習を行った。とても意欲的に取り組み、自分のメッセージを伝えるために、形をよく工夫して表現していた。ただ、この時は、紙の特性や表現方法と自分の表現意図が合致しているかどうかまで考えさせるには至っていなかった。今回は、この部分も意識して、多様な表現方法を考えさせたい。

自分の思いを表現することについては、日々の授業や行事において比較的できている生徒が多い。その一方で、自分の思いを表現した後の相手の反応を考える、つまり、受け取る相手を意識して制作するところまでは至っていない生徒が多いと把握している。今回は、使う人のことや使う目的を随時意識させ、作品と目的や機能等を一体にして考えられる生徒を育てたいと考えている。

○指導観

指導においては、使う人の気持ちや目的を考えて制作するようにする。どのような形にすると相手に自分の表現意図が伝わるのか、試行錯誤しながらつくる体験をさせたい。そのために、まず、導入で商品化された箱を紹介しながら基本の箱の形を学習し、機能的な箱の形に興味をもてるようにする。

構想段階では、ワークシートを用いて、「箱を贈る相手」や「箱の中に入れる物」など、つくる目的を明確にし、形の構想を練るための手助けになるようにする。また、「どのような気持ちを込めるのか」という思いを深め、制作につなげられるようにする。

制作では、まず、紙の折り方やカッターの使い方を確認しながら、紙の特性を生かした作品づくりに取り組めるようにしていきたい。さらに、基本の形をもとにして、それに自分のアイデアを組み合わせ、設計図をつくるよう指導し、立体に表すことの難しさを克服できるようにする。

6. 題材の目標

- ① 機能的なデザインのパッケージについて関心をもつ。
- ② 使う人のことや目的を考えた形を工夫し、構想を練る。
- ③ 紙の特性を生かし、自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。
- ④ パッケージの機能や作者の工夫、作品に込めた思いについて話し合う。

7. 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
関① パッケージの形を簡潔にして構成や装飾を考えることに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。 関② パッケージの目的や機能との調和のとれた美しさや作者の意図や願いなどに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	発① パッケージを開く時の気持ちを考え、形の楽しさや美しさを感じられる表現の構想を練っている。	創① 紙の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	鑑① パッケージの目的や機能との調和の取れた美しさを感じとり、見方を深めることができる。 鑑② 作者の意図や願いなどを感じ取り、作品に対する自分の価値意識をもって味わっている。

8. 題材の指導計画 (全9時間)

次	学習内容 (時数)	学習活動に即した評価規準				評価方法
		美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
1	商品に使われているパッケージのデザインを鑑賞する。 (1時間)	関②			鑑①	ワークシート
2	パッケージの基本の形について学習する。 (2時間)			創①		ワークシート 作品
3	パッケージの形を考えてつくる。 (構想2時間)【本時】 (制作3時間)	関①	発①	創①		ワークシート 作品 授業観察
4	作成したパッケージデザインを鑑賞する。 (1時間)	関②			鑑②	ワークシート 授業観察

9. 本時の目標

- パッケージの目的や贈る気持ちを考えて形の楽しさや美しさを感じられる作品の構想を練る。

10. 本時の展開（4／9）

	生徒の活動	指導上の留意点	評価方法
導入	1. 商品化されたパッケージの形から、構造の面白さを見つける。 【クッキーの箱の特徴】 <ul style="list-style-type: none"> ・星の形 ・たたむと五角形になる ・取り出し口にかみ合わせ部分がある 2. 本時の目標を確認し、活動の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箱の形から、「取り出し口」の形に注目させて、構造の面白さについて紹介する。 ○ 活動の内容を黒板に提示し、簡潔に説明する。 	
	贈る相手や中身、込める気持ちに合うような箱の形を考えよう		
	①ワークシートの確認 ②アイデアスケッチ ③制作のふり返り		
展開	3. ワークシートをもとに、自分が表現したい箱の目的と箱に込める気持ちについて確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰に贈る箱なのか ・何を入れる箱なのか ・どのような気持ちを贈るのか 4. 自分の表現意図にあった箱の形をアイデアスケッチする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箱の目的が形につながることを意識づけする。 ○ 4人グループでワークシートの内容を確認し、かかわり合いがもてるようにする。 ○ 箱の基本の形をもとにイメージをふくらませられるよう、基本の形の見本を準備する。 ○ それぞれの表現意図に合った形になっているかどうか、ワークシートを確認しながら言葉がけしていく。 	授業観察 作品 授業観察
まとめ	5. 4人グループでアイデアスケッチをふり返り、自分や友達の表現意図が形に表されているかに注目してアドバイスし合う。	○ 友達のアイデアのよさや工夫点に意識を向けられるよう、言葉がけをする。	ワークシート